

校内共同研究

1 平成 30 年度研究主題（案）

主体的・対話的に自分の考えを深める児童の育成
－ 算数科における表現力を育てる指導の工夫 －
(3 年次)

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」の時代の中で、グローバル化や情報化をはじめとした社会の加速度的な変化にどのような向き合い、関わっていくのかが問われている。将来の予測が困難で、複雑で変化の激しい社会の中で求められる力の育成が求められていると言える。

全国学力学習状況調査からは、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べたり、実験結果を分析して解釈・考察し説明したりすることなどについて課題が指摘されている。

このような状況の中で、主体的・対話的に自分の考えを深める力を身に付けさせることが社会において自立的に生きるために必要な力として掲げられた「生きる力」を生み出すことになると思う。自分が考えたことを表現させるとともに、自分の考えを説明したり、友達の考えを取り入れたりして友達と協働して学習させることを通して主体的・対話的に自分の考えを深める力を育てることができると考えた。

(2) 本校の教育目標から

本校では「心身共にたくましく 心豊かで主体的に学ぶ児童の育成」と教育目標を定め、様々な教育活動を通してその具現化に取り組んでいる。

算数科の指導を通して、児童一人一人に、課題に見通しを持って取り組ませるとともに、考え、表現するための手立てを身に付けさせることによって児童の考えを表現させることが、主体的に学ぶ児童を育成することにつながると考える。また、友達と協働して学習させる活動を取り入れるとともに、児童の考えを次の学習活動に生かすことによって対話的に児童の考えを深めることが、友達という他者の良さに気付かせる心豊かな児童の育成につながると考えた。

(3) 児童の実態から

仙台市標準学力検査では、高学年になるに従って基礎的な知識、応用力ともに低くなる傾向が見られた。また、全国学力学習状況調査からは、わが校でも判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べたり、実験結果を分析して解釈・考察し説明したりすることなどについて課題が見られた。そこで、主体的・対話的に児童の考えを育成する指導を工夫することによって、これらの課題の解決を図っていきたいと考えた。

3 目指す児童像

- 言葉，式，図などを用いて自分の考えを表現する児童
- 自分が考えたことを友達に分かるように説明する児童
- 友達の考えを取り入れ，自分の考えを深める児童

4 研究の目標

算数科における学習活動の工夫を通して，児童が自らの考えを主体的・対話的に深める表現力を育てための指導の在り方について明らかにしていく。

5 研究の視点

視点1 主体的に児童の考えを表現させる指導の工夫

- (1) 児童に見通しを持たせる問題提示
- (2) 考え，表現するための手立てを身に付けさせる指導

視点2 対話的に児童の考えを深める指導の工夫

- (1) 友達と協働して学習させる活動
- (2) 児童の考えを次の学習活動に生かす指導

本研究の視点に基礎的な知識・技能を定着させる指導を加えた主体的・対話的に自分の考えを深める児童の育成のための3つの柱を「わくわく」「ふむふむ」「こっこつ」と名付け，重点を置いて指導していく。(資料1参照)

6 研究の計画

研究は3か年計画とする。3年次である今年度は昨年度の研究の成果と課題を受け，主体的・対話的に自分の考えを深める表現力の指導の在り方について各学年の系統を踏まえて研究する。

研究の視点に基づいた研究授業と事後検討会を各学年とわか竹学級で行う。

	研修会・授業実践・授業検討会等
4	・第1回研究推進委員会
5	・研究全体会（研究主題，研究計画，研究の視点等の検討）
6 ～ 1 2	・全校研究授業・事後検討会①～⑦
1	・研究全体会（研究の成果と課題の確認）
2	・研究全体会（次年度の研究についての検討） ・研究集録作成

主体的・対話的に自分の考えを深める児童の育成を目指した 3つの柱

わくわく

主体的に児童の考えを表現させる指導

- ① 児童に見通しを持たせる問題提示
- ② 考え、表現するための手立てを身に付けさせる指導

ふむふむ

対話的に児童の考えを深める指導

- ① 友達と協働して学習させる活動
- ② 児童の振り返りを次の学習活動に生かす指導

こつこつ※

基礎的な知識・技能を定着させる指導

- ① 適用問題を用いた繰り返し学習
- ② 家庭と協働して取り組ませる家庭学習

※ こつこつ（基礎的な知識・技能を定着させる指導）については研究の視点としてはいないが、①については授業、スキルタイムで重点をおいて指導する。また②については「家庭学習の手引き」等で家庭での協力を要請する。